



酒瓶の向こう側を伝えたい

ルポ・イラストレーター
まつうら
松浦 すみれさん
(木之本町木之本)

淡く柔らかなタッチの水彩画と丁寧な言葉で綴られたストーリー。松浦さんは、取材したことや感じたことをイラストと文章で紹介する『ルポ・イラストレーター』です。

醸造の神を祀る神社として知られる京都は『松尾大社』の程近く。画業に携わる両親のもとに生まれ、絵を描く環境に恵まれた松浦さんは、自分の才能と進む道を自ずと意識するようになり、絵で身を立てるべく芸大で学びます。

しかし、家族の看病のために道を断念。「将来のイメージが突然崩れた時、手を差し伸べてくれたのが松尾大社でした」。幼い頃から親しんだ神社に巫女として奉職、そこで運命的ともいえる『日本酒』との出会いを果たします。

「醸造にまつわる祭りが一年を通じて行われ、全国の酒蔵が寄せる信仰心や杜氏さんの存在、酒造りが神聖なものであることを知りました」。

神社を退職し念願のイラストレーターとして独立した頃、旅先の酒蔵で松尾大社のお札を見つけ、ただならぬ

縁を感じます。「神社や酒蔵への恩を返しつづ、イラストでその伝統を伝えたい」と、一年にも及ぶ酒蔵を巡る旅へ。自らが味わい惚れ込んだ酒と酒蔵を紹介する書籍『日本酒ガールの関西ほろ酔い蔵さんぽ』を出版します。『日本酒ガール』という代名詞は、「女性も気軽に日本酒を楽しめるようになれば」という願いを込めて自らつけたもの。

「酒瓶の向こうにどんな人があるのかを知ればお酒の味が変わる」という言葉どおり、旅先での出会いや出来事、蔵主の人柄に触れる酒蔵訪問譚は、読む人を酒造りの世界に誘います。綴る言葉も叙情的でしなやか。「肌で感じたことを水彩画のように言葉でもグラデーションを描きたい」。

同じく日本酒に魅入られた夫が酒蔵への転職を決意したのを機に、4年前に木之本に移住、湖北の発酵食に出会います。酒造りにも似た、惜しみなく手間暇をかける暮らしに感動し、発酵食文化の伝承への取組みにも参加。自分の絵を地域のために活かす機会にも恵まれ喜びを感じます。「自分の力を世の中のために」という松尾大社での教えが今に生きています。

人を笑顔にするためにさらに美術力を上げたいと気を引き締めながらも、「日本酒は趣味にしておきたいですね、楽しさを伝えたいですから」と屈託なく笑う松浦さん。一度は潰えた夢へと繋げてくれた神様への感謝を胸に、まだ見ぬ酒蔵への旅は続きます。



びわ南小学校

心を紡ぐたてわり活動

びわ南小学校は、豊かな田園地帯と姉川に囲まれ、大変恵まれた自然環境の中にあります。各教室の横には広いワークスペースがありま

す。当時は画期的な構造だったこのワークスペースは、今でも子どもたちの大好きな空間です。

本校では、相手を思いやる気持ちを育てるとともに、協調性や協力を養うことをねらいとして、たてわり活動に力を入れています。たてわり遊びや運動会はもちろん、掃除もたてわり班で行っています。6年生のリーダーが中心となって掃除の仕方を教えながらひたむきに掃除をし、振り返りの時間には、頑張った人などを認め合います。こうした活動を通して、たくさん

学級のこと、目を向け、人権について学んでいます。認め励ましあえる仲間づくりは、大事にしていきたいことのひとつです。

このように全校児童の縦と横の糸を強く紡いで、様々な教育活動の中で、子どもたちの健やかな成長を育んでいきます。先人の思いをしっかりと受け継ぎながら、地域の皆さんとともに、子どもたちを育てていきたいと考えています。



▲たてわり掃除の様子

長浜子どものちかい ～わたしたちはちかいます～

- ー、元気にあいさつをします
- ー、名前を呼ばれたら「はい」と返事をします
- ー、「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおに言います
- ー、困っている人がいたら言葉をかけます
- ー、人の話をしっかり聞きます

長浜子育て憲章 ～おとなが実践します～

- ー、子どもに誠実に生きる姿を見せます
- ー、見守るまなざし、叱る勇気を大事にします
- ー、ルールとマナーを教え、奉仕の心を育みます
- ー、自然や人々に感謝の心でふれあう子どもを育てます
- ー、長浜に誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます



学校・教育関係の情報が満載

▲市教育委員会フェイスブック

長浜市の情報をスマホでチェック

長浜市 ホームページ	Facebook 長浜市ほっとにゅ～す	Facebook 長浜市教育委員会	Instagram ＃長浜ちよびつく	YouTube はま～るtb.	広報紙をスマホで マチイロ	イベント情報を配信 LINE

人口と世帯数

令和3年3月1日現在

人口	116,763人(−49)
男	57,206人(−33)
女	59,557人(−16)
世帯数	46,564世帯(+32)
	()は前月との比較



植物油インキで印刷しています。

「広報ながはま」は、各自治会を通じてお届けしているほか、市民交流センターや図書館、まちづくりセンターなど市の公共施設やスーパー、診療所などにも置いています。また、市ホームページ、スマホからもご覧いただけます。声の広報も作成していますので、ご希望の場合は政策デザイン課まで。